

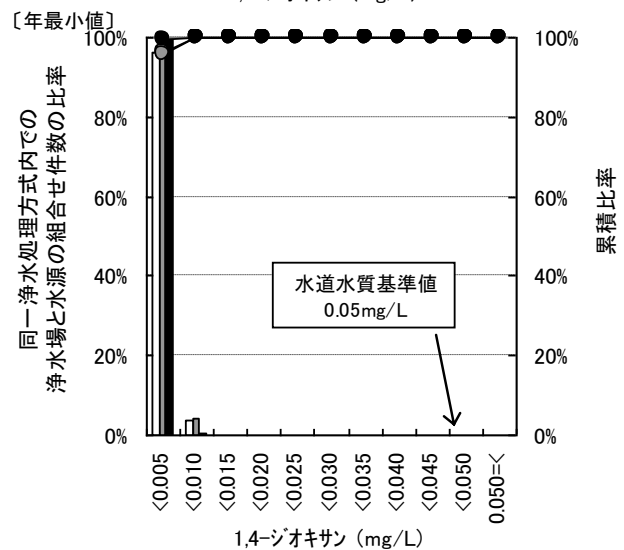
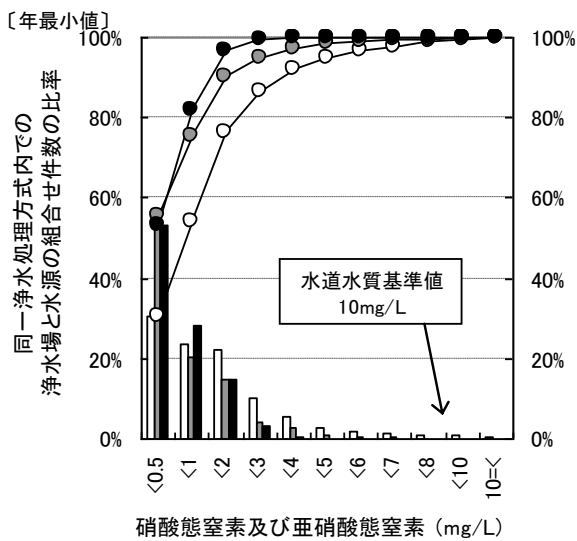
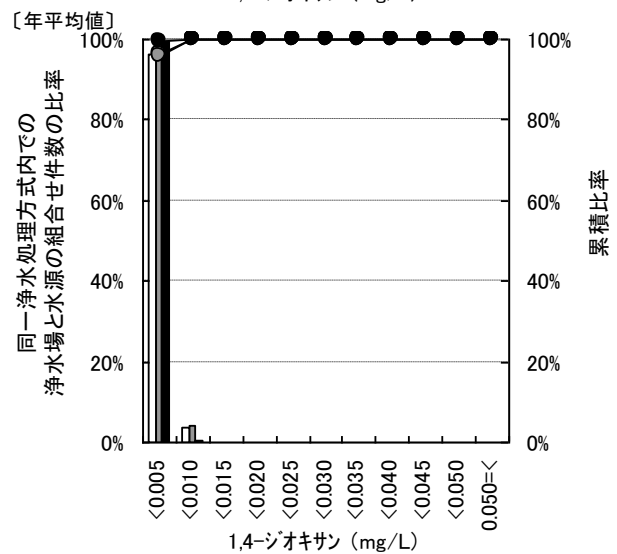
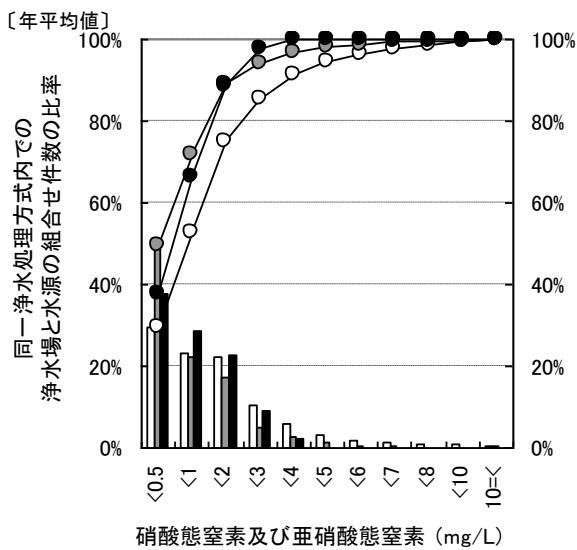
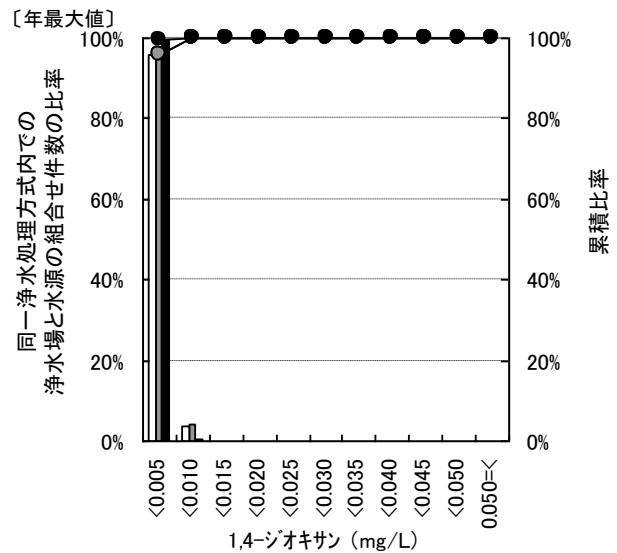
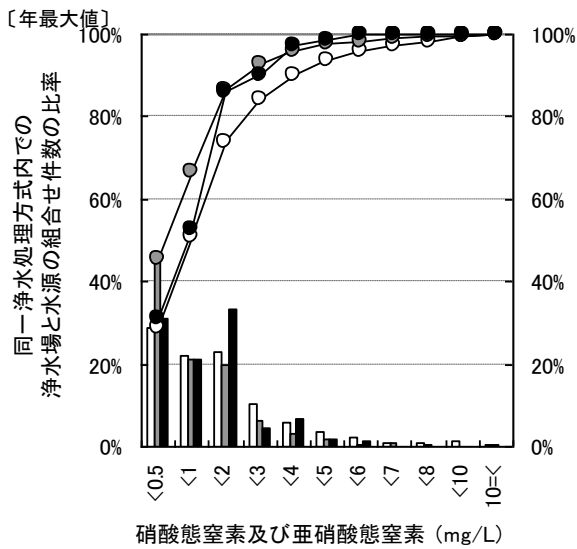
測定を行っているのは基本的にトリハロメタンの懸念が高いところが多いと思われる。
よって実際の濃度分布の差はこれよりもっと大きいと推測される。

⑫ 紫外線吸光度

- ・ 紫外線吸光度は水中に存在する有機物の多くが波長 250～260 nm の紫外線を吸収しやすいという性質を利用して、紫外線の吸収程度をもとに有機物の量を表すものであり、特に不飽和二重結合を有する難分解性有機物の量を表す指標である。一般にトリハロメタン生成能との相関が高い項目とされており、原水の分布はトリハロメタン生成能と同様の傾向を示している。
- ・ なお、この項目は水道水質基準に該当しないため、消毒のみの測定数が非常に少なく、測定を行っているのは基本的にトリハロメタンの懸念が高いところが多いと思われる。よって実際の濃度分布の差はこれよりもっと大きいと推測される。

⑬ アンモニア態窒素

- ・ アンモニア態窒素は、動植物の死骸や排せつ物等のたんぱく質が腐敗・分解する初期段階において発生するアンモニアの量を表すものであり、これが水中に存在する場合、比較的近い時点でのし尿汚染の発生を示唆している。塩素によるブレイクポイント処理のほかでは、硝化細菌の硝化作用を利用した生物処理や粒状活性炭（BAC）処理によって除去する必要がある。
- ・ 原水の分布に着目すると、高度浄水処理において高濃度側に位置している。
- ・ なお、この項目は水道水質基準に該当しない。消毒のみの測定数はトリハロメタン生成能や紫外線吸光度より多いが、測定を行っているのは基本的にアンモニアの懸念が高いところであることから、実際の濃度分布の差はこれよりもっと大きいと推測される。

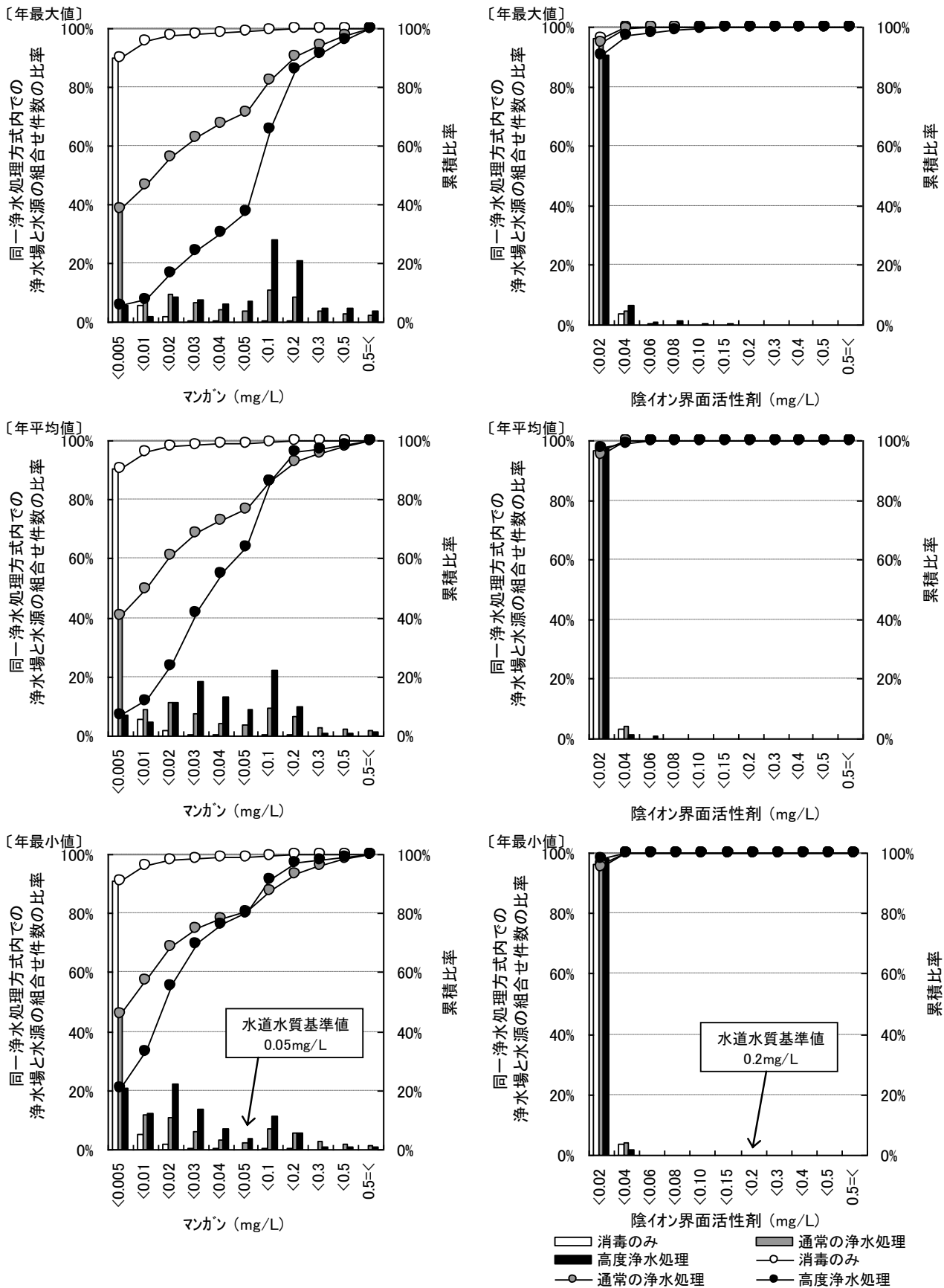


□ 消毒のみ
 ■ 高度浄水処理
 ○ 消毒のみ
 ● 通常の浄水処理

(水道統計水質編(平成18年度版)の年最大値、年平均値、年最小値)

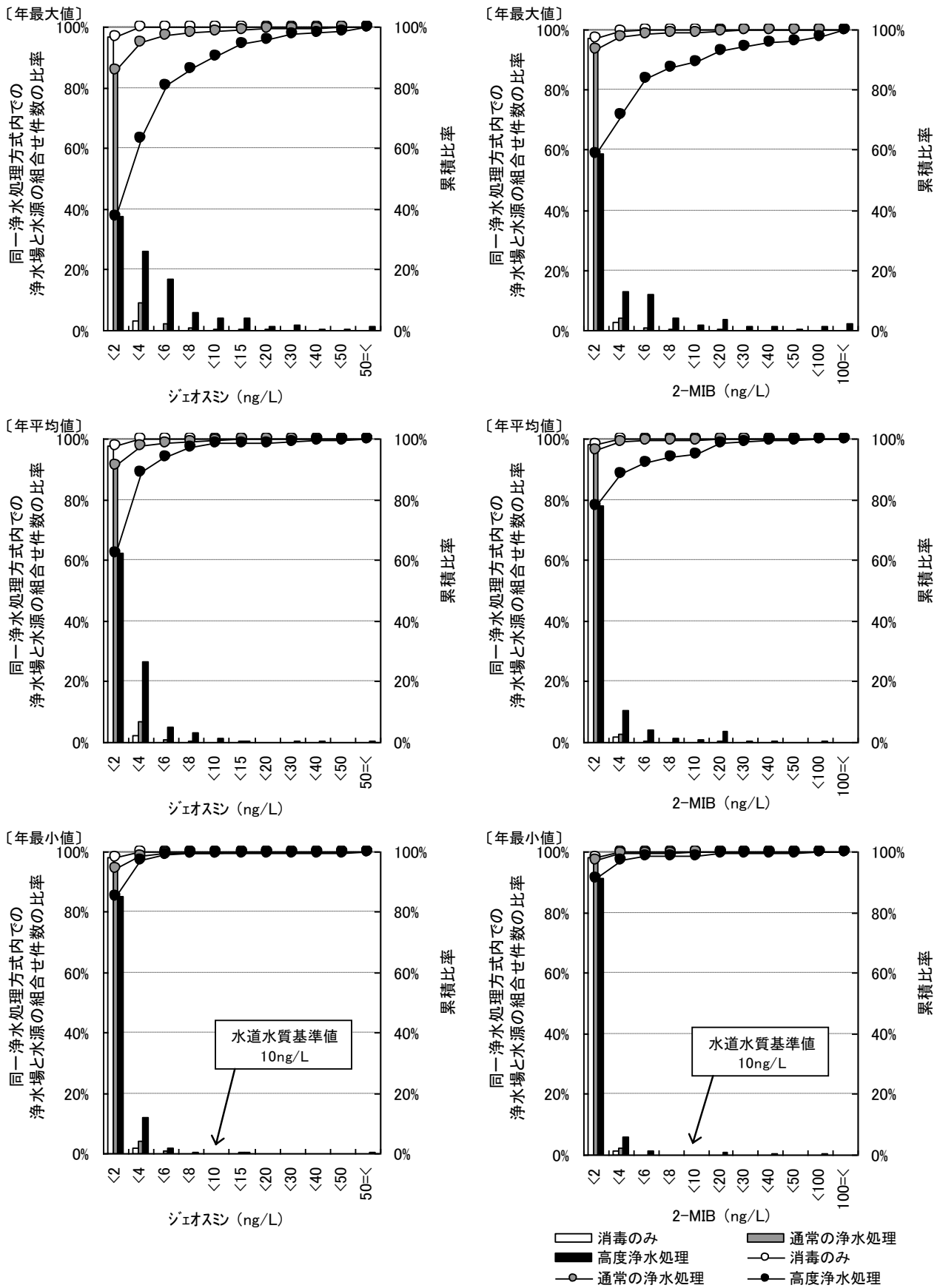
- ・ 1箇所の浄水場で複数の水源を有する場合や、水道用水供給事業の供給先が供給元の浄水場を記載している場合があるなど、一部で重複計上していることがある。
- ・ 省令で定められている検査項目と検査頻度は浄水場によって異なることから、水質基準項目によって測定データの合計数は異なる。
- ・ 上記は図-1-3-3～図-1-3-13についても同様である。

図-1-3-2 浄水処理方式別にみた原水水質の分布状況(1)



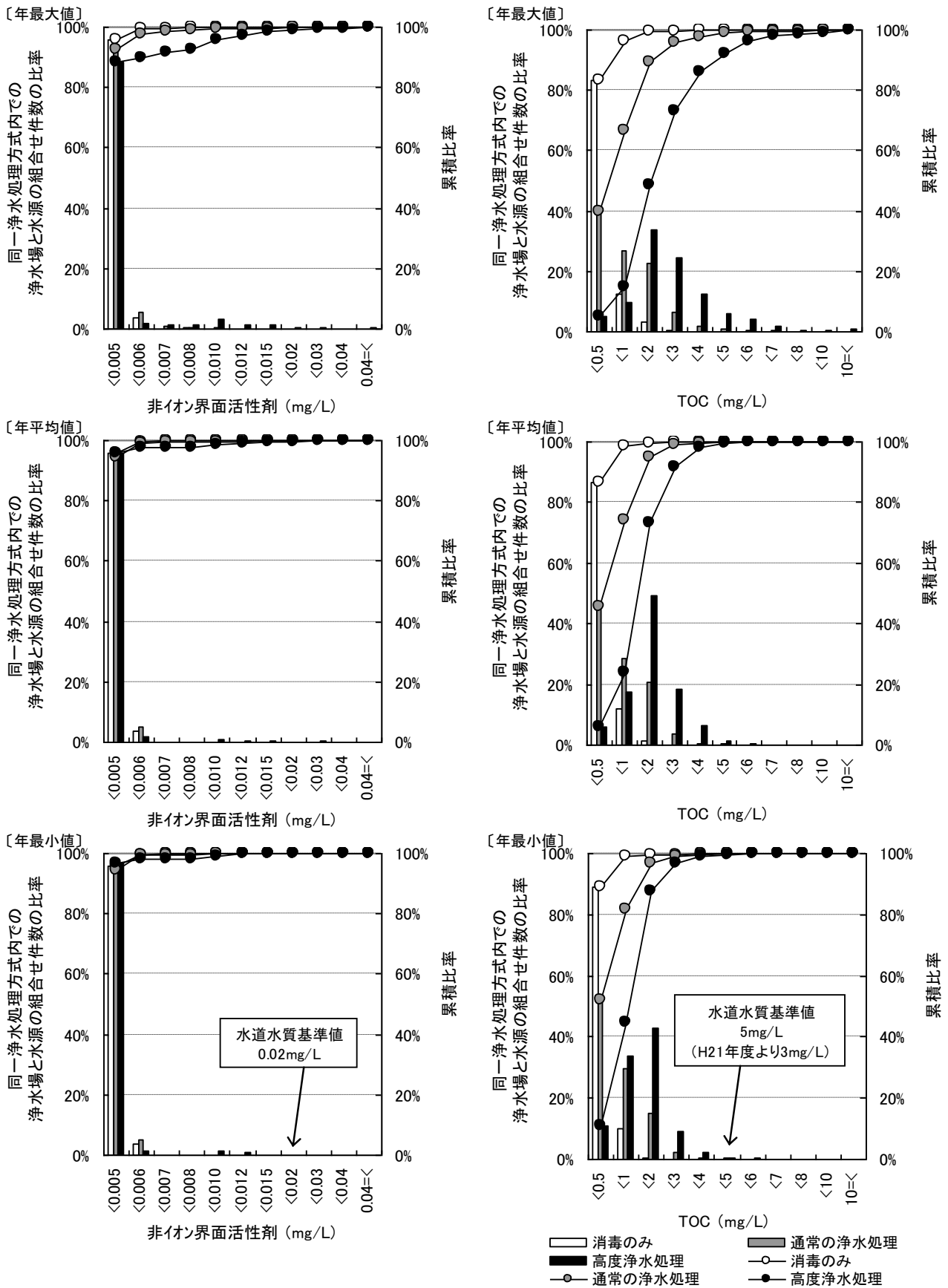
(水道統計水質編 (平成 18 年度版) の年最大値、年平均値、年最小値)

図-1-3-3 浄水処理方式別にみた原水水質の分布状況 (2)



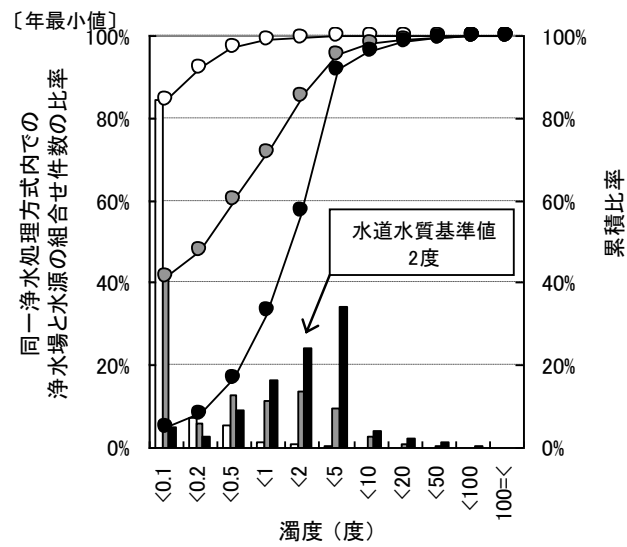
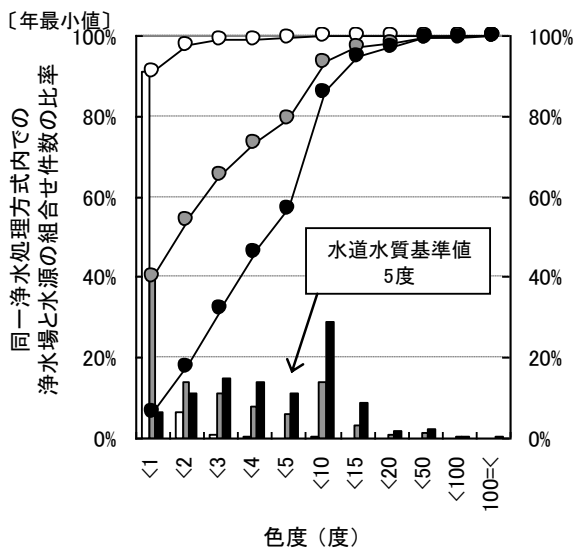
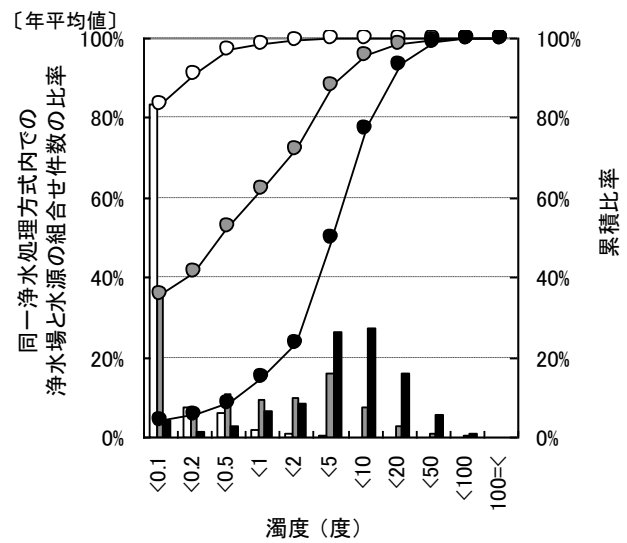
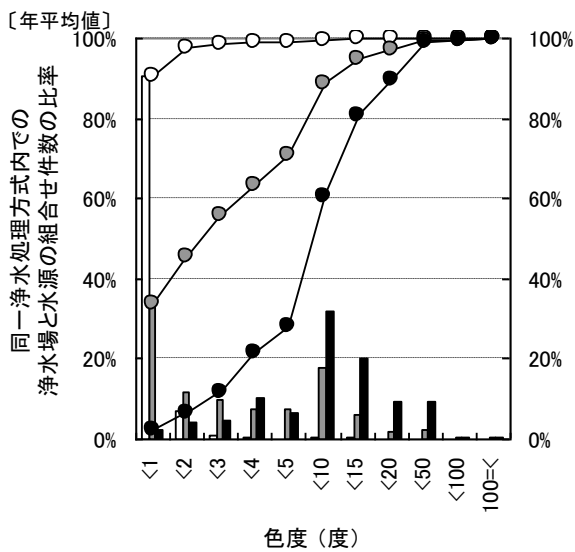
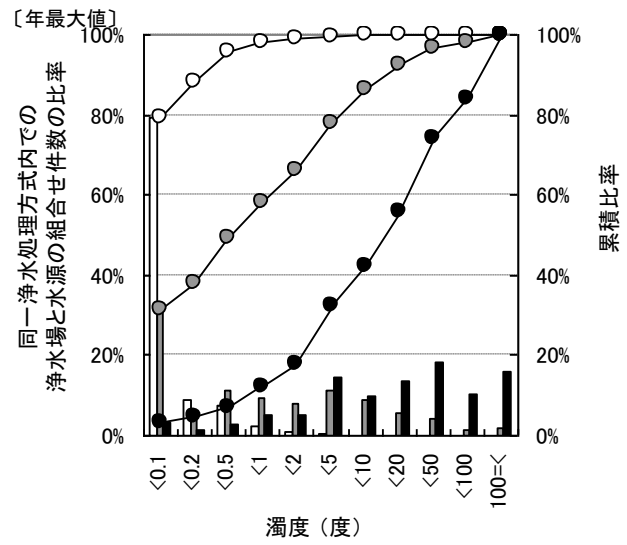
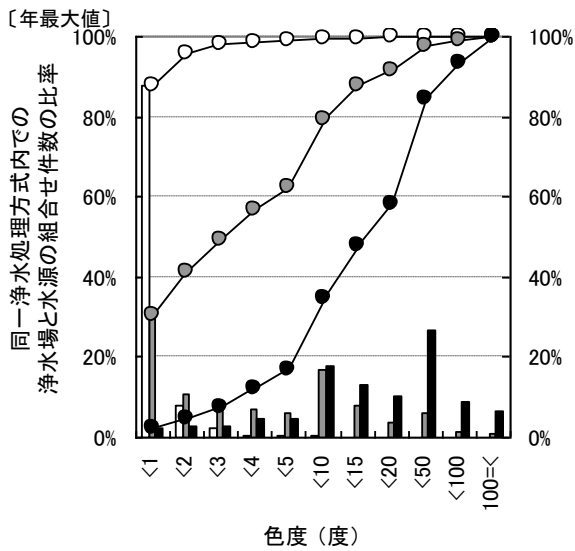
(水道統計水質編 (平成 18 年度版) の年最大値、年平均値、年最小値)

図-1-3-4 浄水処理方式別にみた原水水質の分布状況 (3)



(水道統計水質編 (平成 18 年度版) の年最大値、年平均値、年最小値)

図-1-3-5 浄水処理方式別にみた原水水質の分布状況 (4)



消毒のみ
 高度浄水処理
 通常の浄水処理
 消毒のみ
 高度浄水処理

(水道統計水質編 (平成 18 年度版) の年最大値、年平均値、年最小値)

図-1-3-6 浄水処理方式別にみた原水水質の分布状況 (5)